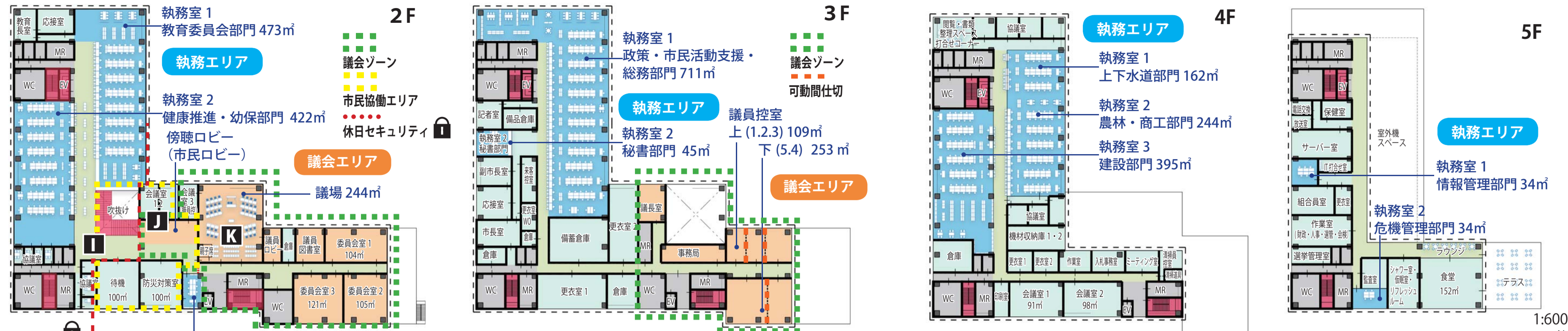


7. 『なかの街道』を中心とした、シンプルなゾーニングと動線による、機能的な『L型プラン』

L型を活かした明快なゾーニングとセキュリティ、動線計画を実現します。執務スペースはまとめることでユニバーサルレイアウトが可能な計画とします。



中心的吹き抜けにより執務エリアと議会エリアを明かに分けることで、単純明快な動線、セキュリティ計画を実現します。

2階と同じエリア配置とすることで、議会エリアが縦動線で単純明快かつコンパクトにつながる機能的な計画とします。

執務スペースと会議室等の諸室をシンプルに配置することで、自由度の高い計画とします。



【知る】L型プランの中心の吹き抜けを配置し、明快に分岐する2つのエリア
 【支える】吹き抜けにより市民利用スペースと1階をつなげることで、市民と行政の協働を促します。



8. 環境と“調和する”環境にやさしい庁舎

a. 自然環境に配慮した省エネの庁舎

自然エネルギーの積極的活用と高効率設備の導入により、一次エネルギー消費量の50%以上を削減し、ZEB Ready化を実現します。

b. 周辺の景観に“調和する”ハコの方節

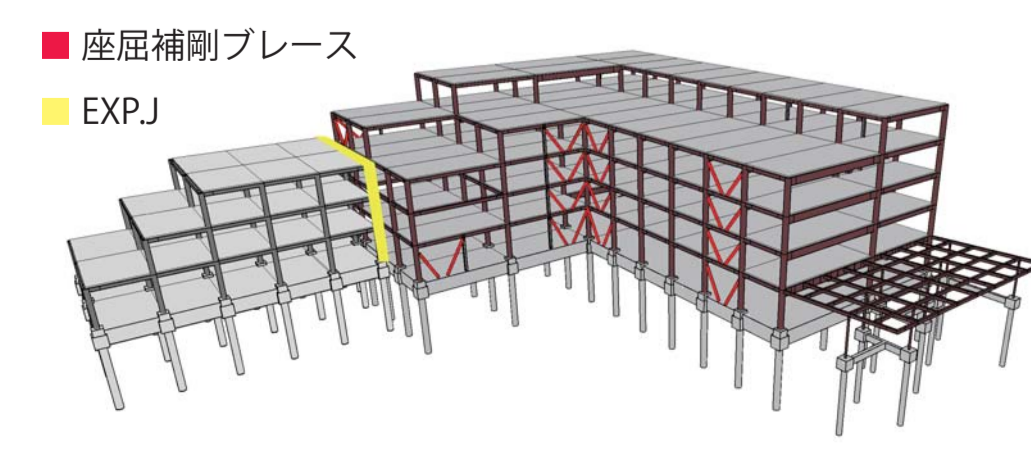
いくつか“方節された箱”とすることで周辺に対するボリューム感をやわらげ、周囲の景観に可能な限り調和した外観とします。



9. 市民を“守る”“安全”な庁舎

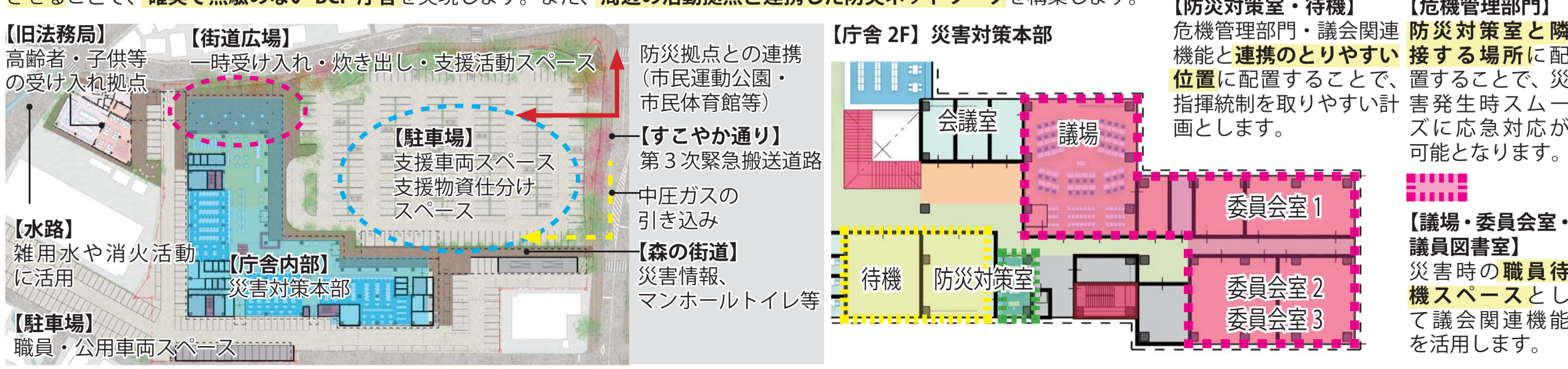
a. フレキシビリティの高い合理的な構造計画

ロングスパンに適した鉄骨造により、高いフレキシビリティを実現するとともに、要所に座屈補剛プレスを配置した「ブレース併用ラーメン架構」とすることで優れた耐震性(耐震1類)の確保と経済性に配慮し、コスト削減を実現します。また、適切な位置にエキスパンションジョイントを設けることで、偏心による「ねじれ振動」を回避した安全な構造計画を無理なく実現します。



b. 市民を守る防災拠点

災害時において『街道広場』や『なかの街道』、議場エリア等の防災対策機能への転用、機能(インフラ途絶時72時間の自立運用)させることで、確実で無駄のないBCP庁舎を実現します。また、周辺の活動拠点と連携した防災ネットワークを構築します。



10. みんなに“やさしい”“安心”の庁舎

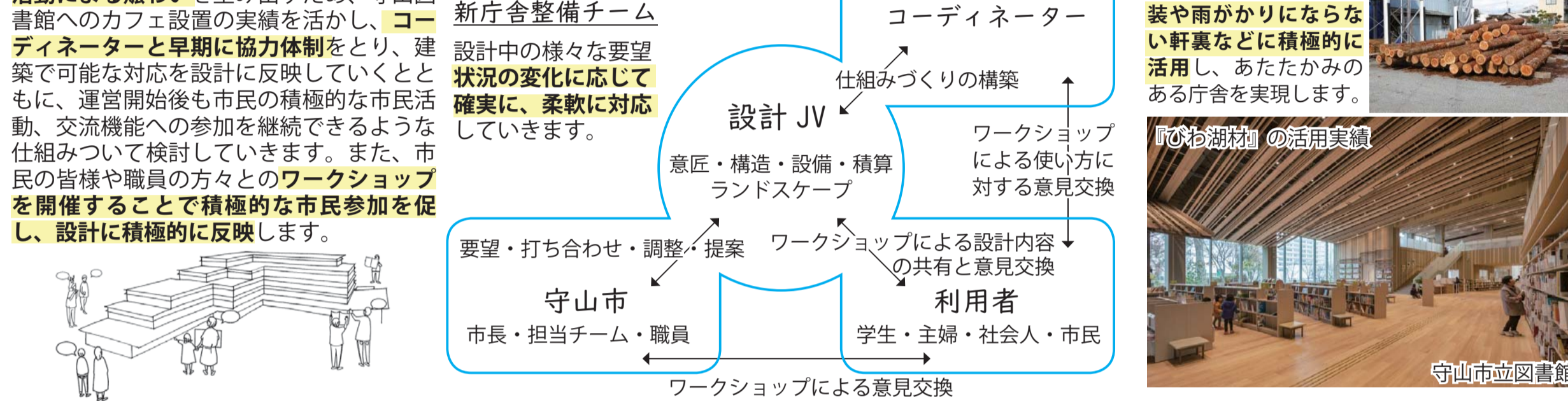
様式10 特定テーマに対する技術提案 受付番号:

子育て世代のための設備の整備(授乳室や、こどもトイレ、キッズスペース等)や危険性を排除、視認性の高い明快なサイン計画、窓口のワンストップ化、バリアフリー、ユニバーサルデザインを徹底し、市民が訪れやすく、活動を行いやすい計画とすることで、市民が気軽に訪れることができる庁舎を目指します。



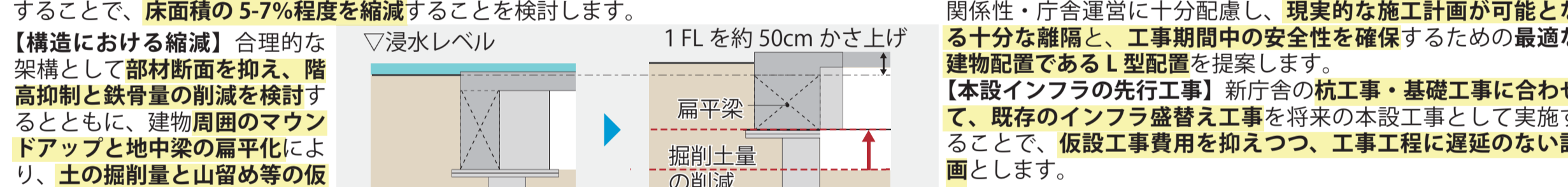
11. 交流・活動を促す『仕組み』をつくる、市民に寄り添う柔軟なチーム体制

『街道』の円滑な運営や積極的な市民交流、活動による賑わいを生み出すため、守山図書館へのカフェ設置の実績を活かし、コーディネーターと早期に協力体制をとり、建築で可能な対応を設計に反映していくとともに、運営開始後も市民の積極的な市民活動、交流機能への参加を継続できるように仕組みについて検討していきます。また、市民の皆様や職員の方々とのワークショップを開催することで積極的な市民参加を促し、設計に積極的に反映します。



12. 地場産材の積極的な活用

『びわ湖材』をはじめとする地産の素材を内装や雨がかりにならない軒裏などに積極的に活用し、あたたかみのある庁舎を実現します。

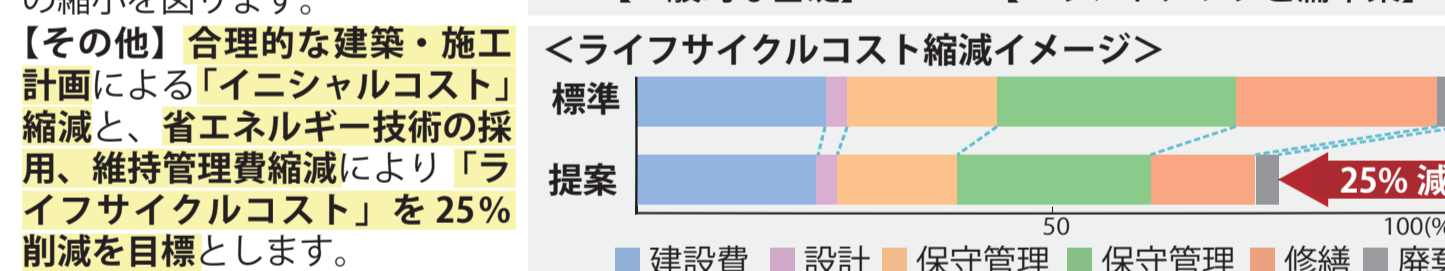


13. 新庁舎を実現する徹底した“コストコントロール”と施工に配慮した“適度な計画”

a. コンパクトな計画によるコスト削減

【床面積の縮減】執務室の「ユニバーサルレイアウト化」や共用部などの効率化を十分検討することで、床面積の5-7%程度を縮減することを検討します。

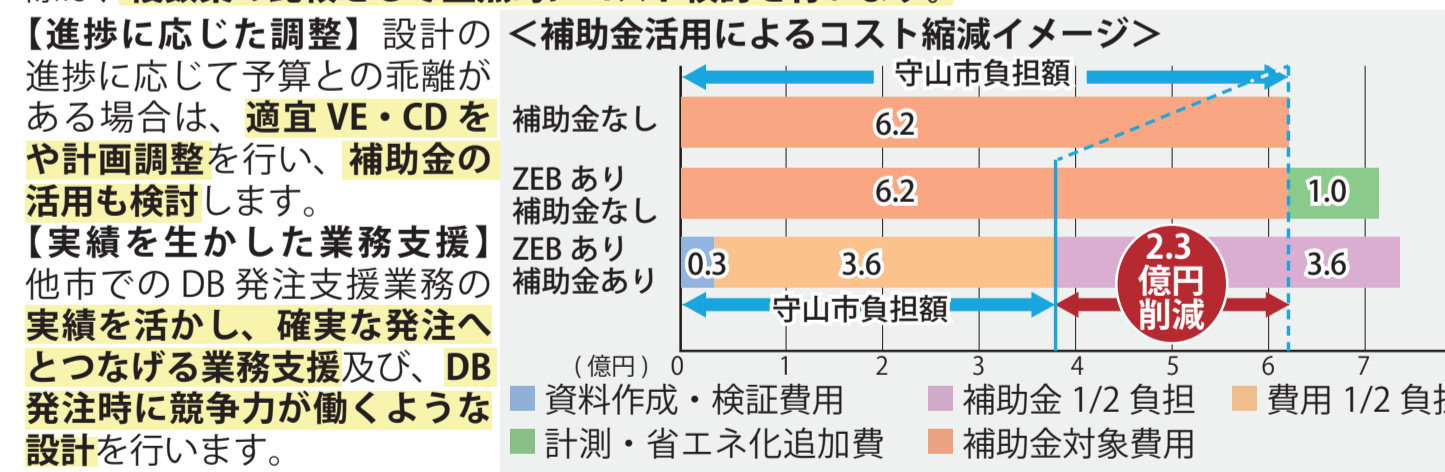
【構造における縮減】合理的な架構として部材断面を抑え、階高抑制と鉄骨量の削減を検討するとともに、建物周囲のマウンドアップと地中梁の扁平化により、土の掘削量と山留め等の仮設工事を減らすことで、建設費の縮小を図ります。



【その他】合理的な建築・施工計画による「イニシャルコスト」縮減と、省エネルギー技術の採用、維持管理費削減により「ライフサイクルコスト」を25%削減を目標とします。

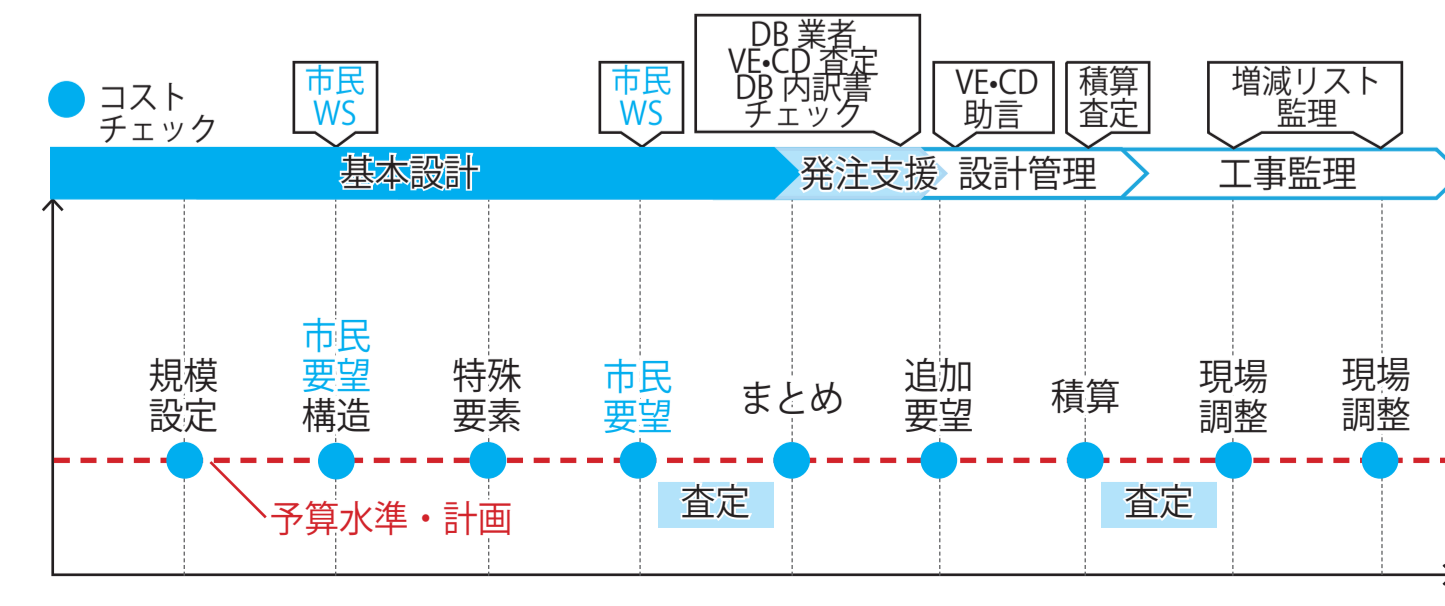
b. 予算に応じた柔軟なコストコントロール

【初期段階での重点管理】コスト削減効果の高い設計の初期段階で重点的にコスト管理を行います。特にコストインパクトのある掘削土量、構造躯体、その他特殊要因等の方針決定の際は、複数案の比較をして重点的にコスト検討を行います。



14. 市民のニーズを取り入れ、コスト管理も徹底する確実な工程

ワークショップを設計初期段階に開催し、市民の要望を集め、設計に反映させます。その後市民への報告の機会を設けることで市民協働を図ります。また、コストについては設計期間中、要所でコストのチェックを行うことで、常に予算水準をキープしながら設計を行います。DB発注以降のコスト管理についても査定への協力を行います。



c. 現実的な施工を想定した適切な配置計画

【施工可能なL型配置】工事期間中に継続利用する既存庁舎との関係性・庁舎運営に十分配慮し、現実的な施工計画が可能となる十分な距離と、工事期間中の安全性を確保するための最適な建物配置であるL型配置を提案します。
 【本設インフラの先行工事】新庁舎の杭工事・基礎工事に合わせて、既存のインフラ盛替え工事を将来の本設工事として実施することで、仮設工事費用を抑えつつ、工事工程に遅延のない計画とします。



15. 面積表

階	執務室	会議室等	付加機能	玄関下	議会	合計
1F	1158㎡	330㎡	496㎡	893㎡	0㎡	3299㎡
2F	925㎡	499㎡	0㎡	459㎡	724㎡	466㎡
3F	754㎡	824㎡	0㎡	296㎡	360㎡	489㎡
4F	801㎡	830㎡	0㎡	219㎡	0㎡	416㎡
5F	691㎡	691㎡	0㎡	258㎡	0㎡	326㎡
合計	3707㎡	3174㎡	496㎡	2125㎡	1084㎡	12705㎡
%	95.17%	103.39%	98.21%	87.62%	110.6%	81.5%

※%は基本計画の面積に対する割合

16. 概算内訳

本体工事(新庁舎)	建築工事	3,609,000
	機械設備工事	779,000
	電気設備工事	779,000
	昇降機設備工事	52,000
	新庁舎庇	182,000
	インフラ盛替え	6,000
	小計	5,407,000
付帯工事等	バス車庫	68,000
	公用車庫	36,000
	周辺駐車場・駐輪場	51,000
	小計	155,000
駐車場・外構工事	外構工事	228,000
	小計	228,000
※転費は除く	合計	5,790,000
	総合計(税込10%)	6,369,000